



南部町立南部中学校 学校だより 第18号

千一ム南部中

令和2年12月7日(月)

校長 望月和彦

2学期も終盤 進路選択に向けて

11月30日(月)12月1日(火)に2学期末テストを実施しました。2学期の授業で学習したことを振り返り、確認するためのテストです。5日前からは部活動停止期間となり、25日と27日



には、放課後学習会も実施しました。テスト当日の朝になると、生徒たちは教科書やノート、ワークブックなどを必死に見ながら最後の確認をしています。テスト中の校内は静寂に包まれ、問題用紙に真剣に取り組む生徒たちの姿が見られました。期末が終わりほっとしたのもつかの間、12月3日(木)には領域別テストを全学年で行いました。中間や期末テストと違って、もう少し広い範囲の学習内容の定着度を



確認するための標準的なテストです。3年生は山梨県と静岡県の入試問題の傾向が異なることから、山梨県側を希望している生徒と静岡県側を希望している生徒がそれぞれの出題傾向の異なる問題にチャレンジしました。点数に一喜一憂するだけでなく、中学生として必要とされる学力のどの部分が理解できていて、どの部分が理解できていないのかを把握することが大切です。その上で、できなかったところは復習して、できるようにしておく必要があります。

さて、3年生は自分の進路を決定する時期になりました。自分自身の将来の目標を考えた上で、その実現のためにはどんな学校に進むのが良いか。目標に対する自分自身の適性はどうか。現在の学力でその学校に合格し、授業についていけるのか。楽しく充実した学校生活を送ることができそうか。通学や経済的負担は大丈夫かなど、様々なことを考えて最終的な決定をすることになると思います。保護者や家族の意見、担任等の教員からのアドバイスを参考にしながら、最終的には3年生一人一人が現段階で最も自分にふさわしい進路を選んでほしいと思います。せっかく希望の学校に入学しながら、中途退学したり、目標を見失ってしまったりする生徒も残念ながらいます。反対に、第一希望でない学校に進学しながら、自分の個性を發揮する場を見つけて活躍し、大きく成長できた生徒もいます。大切なことは、どこの学校に合格するかではなく、進学した高校等でどのような3年間の学校生活を送るかです。進学先で目標を軌道修正することもできます。中学3年時の進路選択がすべてではないということは、頭に入れておくとも良いと思います。



中学校3年間は長いようであつという間です。1・2年生も遠いことだと考えていると、卒業後の進路を決めなければならない時期はすぐにやって来ます。今のうちから進路について様々な情報を得ながら、自分自身で卒業後の進路先について考えたり、家族や担任の先生などと相談してみたりすることが大切です。12月14日(月)から18日(金)は三者面談が予定されています。3年生は当然進路に関わる内容が中心になりますが、1・2年生やその保護者の方々についても進路について聞きたいことやわからないことがあれば、担任に相談してみてください。

生徒たちによる自治的な活動

保健集会「感染症を予防しよう～病気・不安・差別という3つの感染に気をつける～」

11月26日に保健集会を校医の市川万邦先生を招いて行いました。最初に保健委員が新型コロナウイルス感染症のこれまでの経過と現在の状況、本校で行っている感染症対策についてスライドを使って説明し、みんなで確認しました。その後、発熱したとき、鼻水や咳が出たとき、身近で感染者が発生したときなどを保健委員が寸劇で演じ、そのときの対応の仕方について市川先生が丁寧にアドバイスしてくれました。特に、感染はだれにでも起こる可能性があり、感染者に対する差別や間違った不安や恐れをなくし、正しい知識と温かい気持ちを持って対処することが大切であると教えていただきました。



整美委員会による清掃活動の推進

11月27日に整美委員会主催の生徒集会がありました。内容は教室の環境美化やより良い清掃活動を推進するための全校生徒への呼びかけです。教室のロッカーの整理方法、机やイスの運び方、そうきんがけの方法などについて、悪い例と良い例を委員が実演しながら、全校生徒に説明しました。生徒から集会をやらせてくださいと申し出てきたことが素晴らしいと思いました。



福祉委員会主催の「地域清掃」

12月3日には福祉委員会主催の地域清掃を行いました。全校生徒が、登校時に通学路で見つけたゴミを拾って学校に持ってきました。放課後は、部ごとに、諏訪神社からセレモニーホール周辺、診療所から富士川土手、アルカディア周辺、南部商店街や学校周辺等に分かれ、ゴミ拾いを行い、朝と放課後回収したゴミは学校で分別処分しました。中学生の地域への貢献活動の一つです。



本校生徒に対する地域の方々の温かいご支援を紹介します

「なんぶ未来塾」

南部町教育支援センターの事業の1つに、小中学生の家庭学習をサポートする「なんぶ未来塾」があります。総合会館と農村環境改善センターの2会場で、月2回、土曜の夜に開かれており、中学生は20名が登録しています。期末テスト前の11月28日も、多くの生徒が教員OBの先生方にわからないところを教してもらいながら、学習をがんばっていました。



下校時の生徒の見守り

下校時の生徒の安全のために本校の学校支援ボランティアの一人である石川茂さん(2A 侑音さんのお祖父さん)は、生徒の下校時刻に若林自転車店近くの交差点に立ち、町道を横断する生徒の見守りと安全指導を行ってくれています。石川さんは、こうした見守り活動を日暮れが早くなった10月からほぼ毎日のようにやってくれています。ほんとうにありがとうございます。

